

据付方法

V-36K7 V-375K7 V-39K7
 V-37KCPe (-BK) V-37KCPe-L (-BK)
 V-36Ke-BL (-BK) V-36Ke-BL-L (-BK)

警告

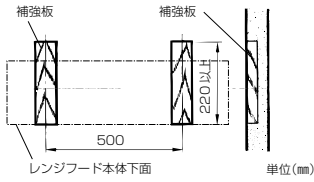
壁据付けした上で吊りボルトを使用するか、壁据付けした上で天井または吊り戸棚に補強材を固定して本体を据付ける。(落下のおそれがあります)

1 据付け前の準備

1. 壁据付けの準備

板据りの場合

- 板厚20mm以上の場合は直接壁に据付ける。
- 20mm以下の場合は20mm以上になるよう補強板を取付ける。

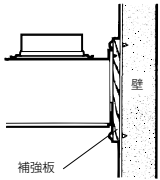


コンクリート、タイル、土壁の場合

- 新築の場合はあらかじめ補強板を壁に埋め込む。
- 既築の場合はコンクリートビスなどを利用するか補強板を固定して据付ける。

メモ

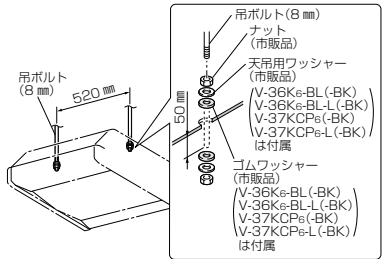
- 既築の住宅に補強板を固定して据付ける場合、補強板が壁面より突出することになりますのでレンジフードファンは壁に密着しません。



2. 天井据付けの準備

吊りボルトを使用する場合

- 据付けにM8mmの吊りボルト2本・ナット4個・天吊用ワッシャー4枚・ゴムワッシャー4枚が必要になります。お客様にて市販品を別途手配してください。(V-36Ke-BL (-BK)・V-36Ke-BL-L (-BK)・V-37KCPe (-BK)・V-37KCPe-L (-BK)は天吊用ワッシャー、ゴムワッシャー付属)
- 吊りボルト2本を天吊用穴の位置にあわせてあらかじめ天井に埋め込む。
- 吊りボルトのピッチは外形寸法図を参照してください。
- 吊りボルトは、本体を据付けたときに本体内部に突出した部分が50mm以内になるようにしてください。

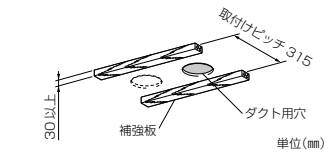


天井または吊り戸棚に直接据付ける場合

- 厚さ30mm以上の補強板を天井または吊り戸棚に据付ける。
- ダクト用の穴をあける

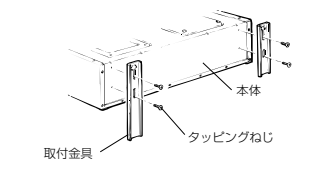
お願い

- 新築・既築により準備が異なりますがいずれの場合も十分強度をもたせてください。



2 取付金具の取付け

- 付属の取付金具2個を付属のタッピングねじ(4×8)各2本で本体に取付ける。



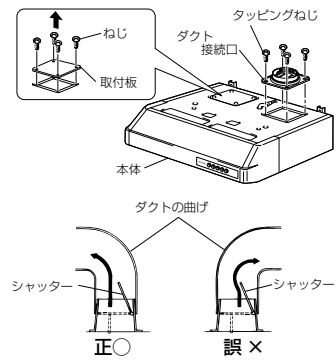
3 ダクト接続口の取付け

付属のタッピングねじ(4×8)4本で付属のダクト接続口を使用する排気口に取付ける。

- 排気口を変更したい場合は、ねじで止めてある取付板のねじをはずして付換える。
- V-36Ke-BL (-BK)、V-37KCPe (-BK)は右排気専用、V-36Ke-BL-L (-BK)、V-37KCPe-L (-BK)は左排気専用となります。

お願い

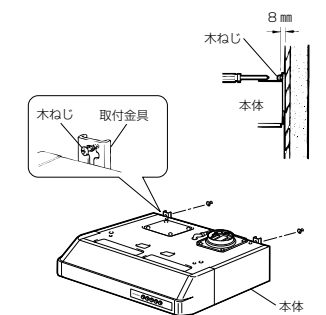
- ダクトを差し込んだとき、シャッターの開き方向とダクトの曲がり方が図のようになるよう取付けてください。シャッター開き方向と逆にダクトの曲がりがあると、風量低下や異常音発生の原因となります。



4 本体の据付け

1. 壁据付け

- 据付位置に、付属の木ねじ(5.1×25)を図のように8mm程度、締め付けを残して締め付ける。
- 木ねじに取付金具を引掛け、支えながら締め付ける。



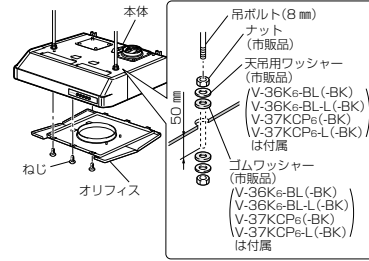
2. 天井据付け

吊りボルトを使用する場合

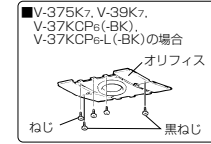
- (1) フィルターをはずし、オフィスのねじ3本(V-375K7、V-39K7、V-37KCPe (-BK)、V-37KCPe-L (-BK)はさらに黒ねじ2本)をはずし、本体からオフィスをはずす。
- (2) 本体の吊りボルト用穴に吊りボルトを通し、ゴムワッシャー・天吊用ワッシャーで本体をさみナットで固定する。

お願い

- 本体は、水平に据付けてください。(前後・左右)本体が傾いていると羽根当たりや、異音の原因になります。

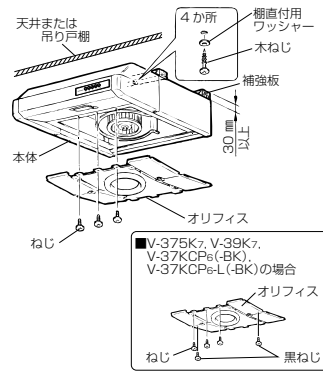


- (3) オフィス・フィルターの取付けは、取りはずしと逆の順序で行う。



天井または吊り戸棚に直接据付ける場合

- (1) フィルターをはずし、オフィスのねじ3本(V-375K7、V-39K7、V-37KCPe (-BK)、V-37KCPe-L (-BK)はさらに黒ねじ2本)をはずし、本体からオフィスをはずす。
- (2) 天井などに、付属の木ねじ(4.1×20)と付属の棚直付用ワッシャー各4個で本体を据付ける。
- (3) オフィス・フィルターの取付けは、取りはずしと逆の順序で行う。



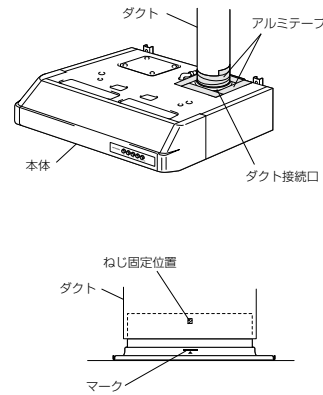
5 ダクト工事

ダクト接続口をしっかりと固定した後、ダクトを差し込み、市販のアルミテープで風漏れのないようテーピングする。

お願い

- ダクト接続口と本体の接触面(ダクト接続口周辺)もアルミテープでテーピングしてください。
- ダクト接続口に無理な力を加えないでください。変形し風漏れやシャッター動作不具合の原因になります。
- シャッターがダクトに接触しないように施工してください。異音発生や製品性能が得られないことがあります。

- ダクトをねじで固定する場合は、ダクト接続口のマークの真上20mmの位置に長さ10mm以下のねじで固定してください。それ以外の位置でねじ固定するとシャッターが正常に動作しない場合があります。



6 電気工事

機種により下記の変圧で結線を行い、電源プラグをコンセントに差し込む。
 ※アース端子を使用し必ずD種接地工事を実施してください。

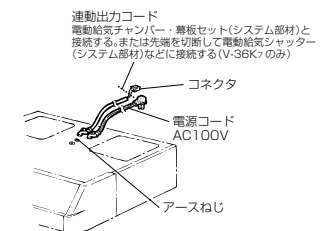
(本体天面……V-36K7・V-375K7・V-39K7)

結線要領

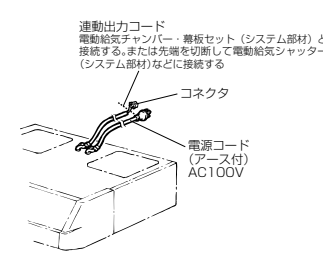
- 電動給気シャッター・中間取付形電動シャッター(システム部材)を使用する場合
 電動出力コードの先端を切断して、電動給気シャッター・中間取付形電動シャッターに接続する。

- 電動給気チャンパー・幕板セット(システム部材)を使用する場合
 電動出力コードのコネクタと電動給気チャンパー・幕板セットのコネクタを接続する。
 ※詳細は電動給気チャンパー・幕板セットの接続の据付説明書による。

■V-36K7、V-375K7、V-39K7



■V-36Ke-BL (-BK)、V-36Ke-BL-L (-BK)、V-37KCPe (-BK)、V-37KCPe-L (-BK)



据付方法

V-316K7 V-316KY7 V-316KR7 V-316KP7
V-316KSW6 V-317K7

この製品は排気方向5方向（V-316KY7は2方向）のうち1つを選んで直接壁に据付けることができます。システム部材を使用すれば丸ダクト配管にて排気ができます。

警告

壁据付けをした上で、吊りボルトやクサリで本体を吊るか吊り戸棚に補強材を固定して本体を据付けるか、またはシステム部材の取付金具を使用して本体を据付ける。
(落下のおそれがあります)

1 排気方向の選択

- ダクト接続口と取付板は、製品出荷時、上部左排気口内側にテープ止めされているので、取りはずす。
- この製品は、排気方向が上部（左・右）、後部、右側、左側の5か所（V-316KY7は上部（後）と後部の2か所）に排気方向が選択できるようになっているので、建物の構造などに合わせて排気方向を選択する。
- 取付金具を使用する場合、上部への排気はできません。

2 据付け前の準備

1. 壁据付けの準備 (図は後部排気の場合です)

板張りの場合

- 板厚20mm以上の場合は直接壁に据付ける。20mm以下の場合は20mm以上になるよう補強板を取付ける。

コンクリート、タイル、土壁の場合

- 新築の場合はあらかじめ補強板を壁に埋め込む。
- 既築の場合はコンクリートビスなどを利用するか補強板を固定して据付ける。

メモ

- 既築の住宅に補強板を固定して据付ける場合、補強板が壁面より突出することになりますのでレンジフード本体は壁に密着しません。

2. 天井据付けの準備

吊りボルトを使用する場合

- 据付けにM8mmの吊りボルト2本・ナット4個・天吊用ワッシャー4枚・ゴムワッシャー4枚が必要になります。お客様にて市販品を別途手配してください。
- 使用する天吊用穴を選択する
- 吊りボルト2本を天吊用穴の位置にあわせてあらかじめ天井に埋め込む。
- *吊りボルトのピッチは外形寸法図を参照してください。
- 吊りボルトは、本体を据付けたときに本体内部に飛び出す部分が50mm以内になるようにしてください。

クサリを使用する場合

- クサリ・フック・クサリと本体をつなぐ針金が必要となります。
- お客様にて市販品を別途手配してください。
- クサリ・フック・針金は、本体の荷重に十分耐えられるものを使用してください。

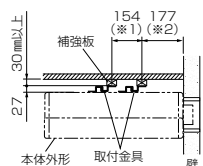
天井または吊り戸棚に直接据付ける場合 取付金具 (システム部材) を使用する場合

- 厚さ30mm以上の補強板を天井または吊り戸棚に取付ける。
- ダクト用の穴をあける。(上部排気の場合)

お願い

- 新築・既築により準備が異なりますがいずれの場合も十分強度をもたせてください。

取付金具を使用 右・左排気の場合 (図は右排気の場合)



3 木枠または不燃枠 (システム部材) の取付け

枠を準備し、壁に穴をあけ、枠を取付ける。

- 枠寸法は、左図の枠寸法図を参照ください。(板厚は、18mm程度を目安にしてください)
- 付属の木ねじ (5.1×25) を左図のように8mm程度、締め付けを残して締め付ける。

後部排気の場合

- 木ねじと本体および枠の位置関係は左図のように行ってください。

左・右排気の場合

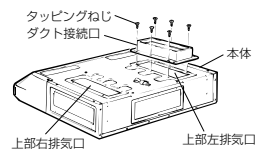
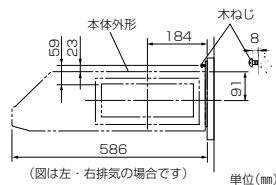
- 木ねじと本体および枠の位置関係は左図のように行ってください。

お願い

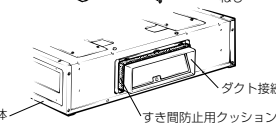
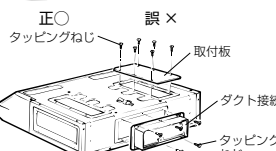
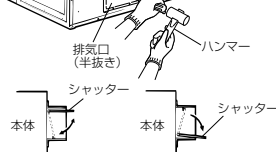
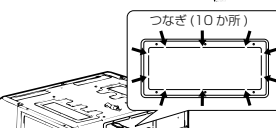
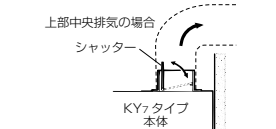
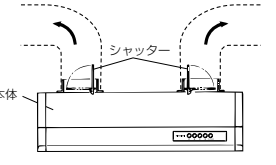
- 壁穴の大きさは、枠が取付けられる大きさにしてください。壁穴のあけかたと枠の取付けかたは、壁の材質などにより異なりますので、工事業者とご相談のうえ行ってください。

(丸形排気アタッチメントを使用の場合は、枠の取付けが不用です。)

- 地域により木枠や不燃枠の材質、可燃物との距離について防災上の制限があります。詳細は行政官庁または消防署にお問い合わせください。



上部左排気の場合 上部右排気の場合



4 ダクト接続口と取付板の取付け

上部左排気口以外の排気口は半抜きになっており、打ち抜いて使用します。

上部左排気の場合

取りはずしたダクト接続口を、上部左排気口に付属のタッピングねじ (4×8) 6本で取付ける。

お願い

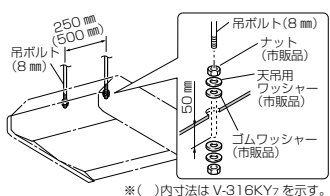
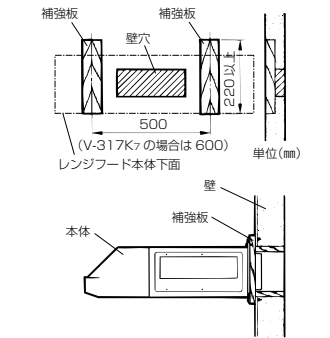
- 上部排気の場合、シャッターの開き方向は図のように取付ける。

上部右排気、左・右排気、後部排気の場合

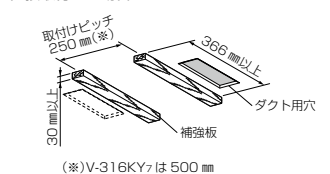
- 本体外側からハンマーとマイナスドライバーで排気口 (半抜き) のつなぎ部分を打ち抜く。

お願い

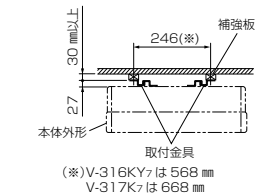
- 排気口を打ち抜くときに、本体に傷を付けないようにしてください。



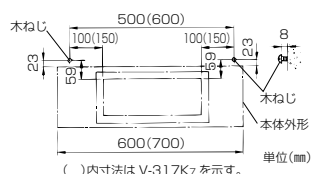
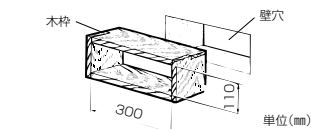
直接取付ける場合



取付金具を使用 後部排気の場合



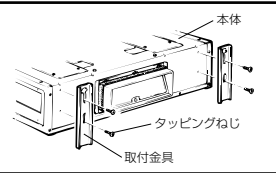
(*) V-316KY7は568mm
V-317K7は668mm



()内寸法はV-317K7を示す。
(図は後部排気の場合です)

5 取付金具の取付け

- 付属の取付金具2個を付属のタッピングねじ (4×8) 各2本で本体に取付ける。



6 本体の据付け

1. 壁据付け

- 据付位置に、付属の木ねじ (5.1×25) を図のように8mm程度締め付けを残して締め付ける。
- 本体ダクト接続口を木枠に差し込み、木ねじに取付金具を引掛け、支えながら木ねじを締め付ける。

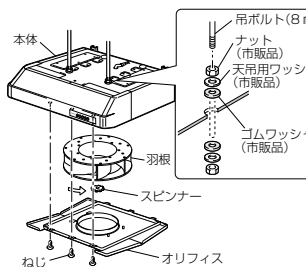
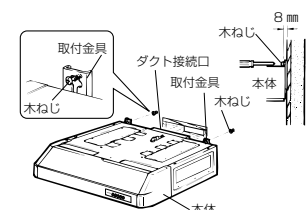
2. 天井据付け

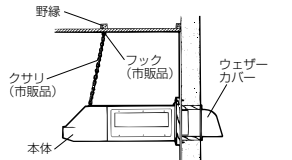
吊りボルトを使用する場合

- フィルターをはずし、オフィスのねじ3本 (V-317K7はさらに黒ねじ2本) をはずし、本体からオリフィスをはずす。
- 羽根を押さえないからスピナーを右へ回しゆるめ、羽根をはずす。
- 本体の吊りボルト用穴に吊りボルトを通し、ゴムワッシャー・天吊用ワッシャーで本体をはずみナットで固定する。

お願い

- 本体は、水平に据付けてください。(前後左右) 本体が傾いていると羽根当たりや、異音の原因になります。
- 羽根の取扱いには十分注意してください。変形すると異常音の原因となります。
- 羽根・オリフィス・フィルターの取付けは、取りはずしと逆の順序で行う。





クサリを使用する場合

- フックを天井の野線に取付け、クサリを引っ掛ける。
- クサリと本体のクサリ引掛穴に針金を通してしっかり固定する。

天井または吊り戸棚に直接据付けの場合

- フィルターをはずし、オリフィスのねじ3本 (V-317K7はさらに黒色のねじ2本) をはずし、本体からオリフィスをはずす。
- 羽根を押さえずにスピナーを右へ回しゆるめ、羽根をはずす。
- 天井などに、付属の木ねじ (4.1×20) と付属の棚面付用ワッシャーで本体を取付ける。
- 羽根・オリフィス・フィルターの取付けは、取りはずしと逆の順序で行う。

お願い

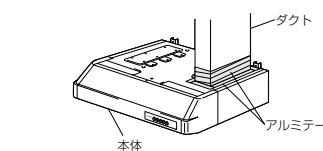
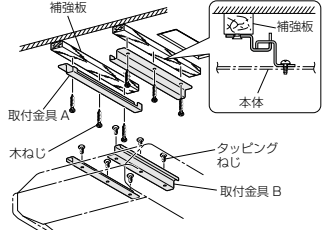
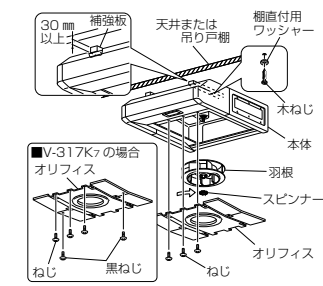
- 本体は、水平に据付けてください。(前後左右) 本体が傾いていると羽根当たりや、異音の原因になります。
- 羽根の取扱いは十分注意してください。変形すると異常音の原因となります。

取付金具 (システム部材) を使用する場合

- 補強した天井などに、部材に付属の木ねじ (5.1×25) で取付金具Aを取付ける。部材に付属のタッピングねじ (4×12) で、取付金具Bを本体に取付ける。

お願い

- 排気方向により取付金具の向きが異なります。取付金具の据付説明書や「据付前の準備」のイラストで方向を確認してください。
- ダクト接続口を壁穴に差し込みながら、取付金具Bを取付金具Aに引掛けて本体を据付ける。



お願い

- ダクト接続口と本体の接触面 (ダクト接続口周辺) もアルミテープでテーピングしてください。
- ダクト接続口に無理な力を加えないでください。変形し風漏れやシャッター動作不具合の原因になります。
- シャッターがダクトに接触しないように施工してください。異音や製品性能が得られないことがあります。

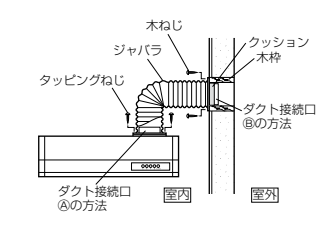
7 ダクト工事

ダクト接続口をしっかり固定した後、ダクトを差し込み、市販のアルミテープで風漏れのないようテーピングする。

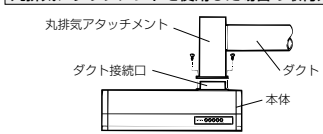
その他 (システム部材を使用) の取付けかた

ジャバラを使用する場合の据付方法

- ジャバラの使用については、地域により異なった規制を受ける場合がありますのであらかじめ所轄の官公庁 (特に消防署) にご相談ください。
- 後部排気時はジャバラは使用できません。
- ジャバラを取付ける場合の作業には、④ダクト接続口を本体に固定する方法と、⑤壁面にダクト接続口を固定する方法があります。



丸排気アタッチメントを使用した場合の取付方法



8 電気工事

V-316K7・316KY7・316KR7
V-316KP7・317K7の場合

機種により下記の要領で結線を行い、電源プラグをコンセントに差し込む。
※アース端子を使用し必ずD種接地工事を実施してください。(本体天井)

結線要領 (V-316KR7のみ)

- 煙逆流防止ダンパー (電動給気シャッター) を使用する場合、運動出力コードと確認ランプ用コードの先端を絶縁端子ごと切断する。(端子は絶縁のためのものですので配線する場合は必要ありません)
- 各コードを煙逆流防止ダンパーなどと結線する。

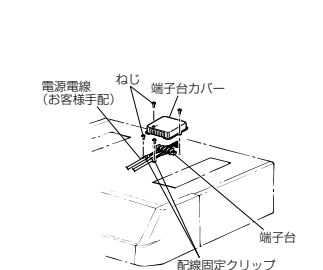
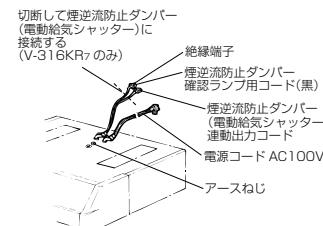
お願い

- 電動給気シャッターと接続する場合は、確認ランプ用コードは使用しないでください。

V-316KSW6の場合

結線は2芯VVVFケーブル (φ1.6) を使用します。お客様にて市販品を別途手配してください。

- ねじをはずして端子台カバーと配線固定クリップを取りはずす。
- 結線図に従って端子台に電源電線を接続する。
- 配線固定クリップを電源電線に取付け、ねじで固定する。
- 端子台カバーを元通り取付ける。
- アース端子を使用し必ずD種接地工事を実施する。

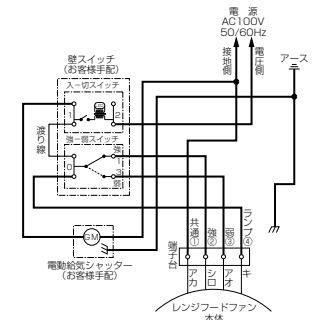


結線図

- 太線部分を結線してください。
- 市販の壁スイッチを使用する場合は下記を参照して結線してください。

■壁スイッチP-04SW2eを使用する場合

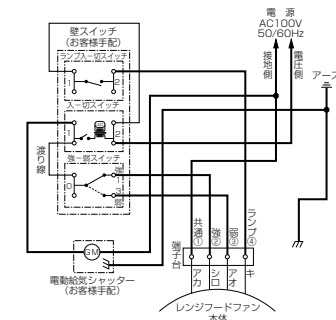
(ランプ入/切スイッチなし)



※図中①～④は、導通確認をする配線または端子台の電極番号

■壁スイッチP-60SW2eを使用する場合

(ランプ入/切スイッチ付)



※図中①～④は、導通確認をする配線または端子台の電極番号

据付け後の確認

据付けが завершиましたら、下表に従ってもう1度点検してください。

■不具合があった場合は必ず直してください。

(機能が発揮されないばかりか、安全性が確保できません)

警告

ランプを点検する際は必ず電源プラグをコンセントから抜くか、分電盤のブレーカーを切る。(感電することがあります)

チェック項目	不具合時の対策	チェック
本体は確実に固定されていますか?	本体を確実に固定します	
ランプはゆるんでいませんか?	ランプを確実に取付けます	
電圧は100Vですか?	100Vに直します (異電圧を印加すると製品が破損します)	
煙逆流防止ダンパー (電動給気シャッター) は確実に接続されていますか? (V-316KR7のみ) (電動給気シャッター接続の場合、確認ランプは点灯しません)	煙逆流防止ダンパー (電動給気シャッター) を確実に接続します	
D種接地工事はされていますか?	D種接地工事をします	

壁スイッチタイプの結線確認

下記手順で壁スイッチと端子台の結線を確認してください。

(誤結線されるとスイッチが溶着し故障します)

(1) 電源がきていないときの導通の有無 (端子台と結線する前に配線にて導通を確認してください)

■壁スイッチP-04SW2e (ランプ入/切スイッチなし) を使用する場合

配線の番号	壁スイッチの状態	
	強	弱
共通①-強②	導通ナシ*	導通ナシ
共通①-弱③	導通ナシ	導通ナシ*
強②-弱③	導通ナシ	導通ナシ
強②-ランプ④	導通アリ	導通ナシ
弱③-ランプ④	導通ナシ	導通アリ

*印は給気用電動シャッター等の負荷が接続されていない場合、負荷が接続されている場合は、抵抗負荷がかかります。例: P-18QDLB-BLの場合、約1.3kΩ

■壁スイッチP-60SW2e (ランプ入/切スイッチ付) を使用する場合

配線の番号	壁スイッチの状態		壁スイッチの状態	
	強	弱	強-弱スイッチ	弱
共通①-強②	導通ナシ*	導通ナシ	ON	OFF
共通①-弱③	導通ナシ	導通ナシ*	OFF	ON
強②-弱③	導通ナシ	導通ナシ	強-弱スイッチ	弱
強②-ランプ④	導通ナシ	導通ナシ	強	弱
弱③-ランプ④	導通ナシ	導通ナシ	導通ナシ	導通ナシ

(2) 電源がきているときの正規電圧 (結線後に端子台にて電圧を確認してください)

■壁スイッチP-04SW2e (ランプ入/切スイッチなし) を使用する場合

端子台電極の番号	壁スイッチの状態	
	OFF	ON
共通①-強②	100V	弱
共通①-弱③	100V	強
共通①-ランプ④	100V	100V

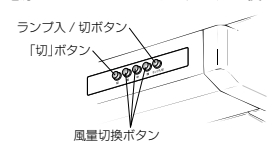
(電源電圧100Vは多少変動する場合があります)

■壁スイッチP-60SW2e (ランプ入/切スイッチ付) を使用する場合

端子台電極の番号	壁スイッチの状態		壁スイッチの状態	
	OFF	ON	強-弱スイッチ	弱
共通①-強②	100V	弱	ON	OFF
共通①-弱③	100V	強	OFF	ON
共通①-ランプ④	100V	100V	導通ナシ	導通ナシ

試運転

■電源プラグをコンセントに差し込み後、必ず次の確認をしてください。



1. 電源プラグはしっかり差し込まれていますか?
2. ランプ入/切ボタンを押すとランプが点灯しますか?
3. 風量切替ボタンを押して風量が切りかわりますか?
4. それぞれの風量で運転した場合、振動や異常音がありませんか?

■試運転後、天井および壁などに内装用接着剤や塗料が使用されている場合がありますので、本体の保護のために保護材で覆ってください。

お客様への説明

■使用者立会いのもとで試運転と別冊の「取扱説明書」に従って、正しい使いかたをご説明ください。とくに「安全のために必ず守ること」の項は、安全に関する重要な注意事項を記載していますので、必ず守るようにご説明ください。

■この「据付説明書」は「取扱説明書」ともお客様へお渡しくさいます。

■お客様が不在の場合は、発注者 (オーナーなど) または、管理人様へ説明してください。